******ここから『電子耕』***
隔週刊「７８歳が送る農業文化マガジン『電子耕』　第１０９号
−健康・農業・食・図書・人物情報・高齢者と若者の交流誌−
http://nazuna.com/tom/
２００３．５．１５（木）発行 西東京市・ひばりが丘　原田　勉
************************************発行部数 1818 部***********
＜キーワード＞
　健康・食べ物・農林園芸・図書を中心とした雑学情報を提供し、庶民の歴史も残す。高齢者と若者の交流ミニコミ誌。お互いに情報を交流しましょう。

★───────────────────────────────

★毎日新聞　紀平重成記者　「アジア見聞録」＞「銀幕閑話」好評連載中
http://www.mainichi.co.jp/asia/goraku/cinema/
＃バックナンバー
http://www.mainichi.co.jp/asia/goraku/cinema/2003/backnumber1.html

───────────────────────────────★

□　目　次　　□--

＜読者の声＞内田さんから、すずき産地さんから、丹羽さんから、安富さんから、嵯峨農園さんから、栗田さんから、岩波山本さんから、松山さんから、森さんから、斎藤さんから
＜舌耕のネタ＞「クラス会　無料　病気相談日？」原田勉
＜山崎農業研究所情報＞定例研究会報告「キューバの農業」「遺伝子組換え」
＜丹羽敏明の戦争体験＞９、虎退治「山蛭のお蔭で命拾い」
＜日本たまご事情＞「東京・等々力（とどろき）の蜜蜂」愛鶏園・斎藤富士雄
＜森　清の読後感＞「女性と仕事２、女の駆け抜け法」遥洋子『ハイブリッド・ウーマン』講談社、２００３年１月刊、１５００円＋税
＜ＮＨＫと近藤康男＞戦後民主化の先駆け「放送委員会」の思い出
＜元気な農業・元気なくらし・４「大人気！誰でも打てる十割そば」栗田庄一
＜農文協図書館サイト更新情報＞
＜文化座サイト更新情報＞
＜私の近況報告＞５月１日ー１３日（先輩との訣れ）

＜読者の声＞（お断り：最近視力が極端に落ちました。そのため従来メールがきたらすぐ返信していましたが、それが出来なくなりました。今後メルマガ『電子耕』だけで返信・コメントいたしますので、ご承知ください）

＜読者の声＞

●4/29 内田さんから、
台東区の内田です。

27 日に息子と東京ビックサイト（ブックフェア）にいってまいりました。
諸外国の様々なものに出会いました。
息子もスペイン、イタリア、中国、韓国、等・・・
歴史、哲学・・・数十冊かいこみ、「農文協」の方に
紙袋を頂いたり、お世話になりました。
「五分で作れるお豆腐」の実演もみて、試食もしてまいりました。
国産の大豆で作ったほかほかのお豆腐、たいへん美味しかったです。
何よりも、息子と共通の趣味の時間をたっぷり持てたことにも
感激でした。
有り難うございました。

○原田からコメント：たくさん本を買って頂いてありがとうございました。農文協に代わってお礼申し上げます。
=-
●5/1 すずき産地さんから、
（第１０８号、
http://nazuna.com/tom/txt/100-/108-20030501.txt
読者の声を読んで）

意見を交流して下さいと原田さんのコメントがあったので、田んぼに出かける前に…。

> （もし「隣保」という言葉に違和感を感じなければ、あなたは立派な戦争推進派です。）

鈴補…「りんほ」と入力して変換した１回目です。
隣保…「りんぼ」でも「りんぽ」でも、正しく変換できるようですが、本当の読みがわかりません。

おはようございます。
地球温暖化をふまえてのことだと言い張って周囲よりは遅らせていますが、
それでも田んぼ作業が忙しくなっています。

小柴さんのご意見、まだ噛みしめて読んだわけではないのですが、なんとなくわかる気がします。

３月に、私は次のようなポスターを自作しました。
http://www.suzuki31.com/nocus/2003/03/16.html
イラクの子どもたちの写真に添えて、
「この子たちを殺す 無関心と沈黙と 私たちの税金」
と書きました。

戦争に加担する国の国民として、それが許せないなら、やるべきことは税金の使い道を変えること。すなわち、政治を変えることなのだろうと思っています。そのために、一人ひとりの生き方　も　問われる。小柴さんの指摘に賛成です。

見にくくて恐縮ですが、
うちの子どもたちのこんなエピソードを紹介します。
http://www.suzuki31.com/vegeta/2003/0314.html
子どもたちに励まされながら、
子どもたちのためにも、
子どもたちと手をたずさえて、
やっぱり前を向いていきたいと思っています。

すずき産地　http://www.suzuki31.com/

○原田から：メール有り難うございました。イラク戦争の後も日本で有事法制や言論統制の法律ができ、憲法第９条に反する政策が進められています。私たちは日常的にどう対処するか正念場です。
=-
●5/1 丹羽さんから、
１０８号の配信有り難うございました。だんだん多彩な内容になってきましたね。次の配信が待たれます。

元日赤の従軍看護婦・花田ミキさん（青森在住）から従軍記録を綴った冊子を贈って頂きました。歌人でもある花田さんは短歌で戦争の悲惨さ、御自分の戦争に対する信条を的確に表現しておられます。「衛兵の日夜守れる白き家将校用の女（ひと）たちがいき」「院庭の焼場にひつぎ重なれど黄土戦野に供花ひ

とつなく」「傷兵らの遺書めきし手紙代筆し律をおかして営外に出しき」「傷兵の血管をうじ破るらし弓なりに噴く動脈出血」「少年兵数百人のせしまま撃沈されし台湾海峡」「ころし合う戦いの場にみとりする矛盾気づきし戦後は重く」「黙しおれば消えゆくものを胸底の燠(おき)なお消えずいくさ詠みつぐ」。最後に花田さんは私を支えるただ一つのモノサシ、それは『いのちを阻むものはすべて悪』と喝破しておられます。

=-

●5/2 安富さんから、

山崎農研定例研究会４／２５の要旨をお送りします。

配布資料がなかったので、内容についてチェックできていませんが、ご一読のうえ加筆訂正をお願いいたします。

=-

●5/5 嵯峨農園さんから、

いつも雑穀ブレンドをご愛食いただきありがとうございます。

HP を拝見し、たくさんのおもしろそうな本を発見しました。

今後じっくりと拝見させていただきます。

私どもの雑穀生産組合の最高齢の源吉じいさんが先日亡くなり（９７歳）残念に思っていたところですが、元気なご老人がたくさん農業の分野で活躍されていることを知り、心強く思います。

岩手の北上山地ではいま、田んぼと畑の準備で目が回る忙しさです。今日は畑に堆肥数トン散布し、埋もれた田んぼの水路を掘りあげなければなりません。冬が長い分、５月から 10 月の半年間は大変です。

メルマガの申し込みをさせていただきました。楽しみにしております。

ご注文の品は本日、５日に発送致します。

よろしくお願い致します。

嵯峨農園　　代表　嵯峨　均

岩手県下閉伊郡川井村江繋 13-22-1

電話　0193-78-2459　fax　78-2470

sagafarm@pb3.so-net.ne.jp

http://morioka.cool.ne.jp/sagafarm/

○原田からコメント：今年の３月からひえ、そば、もちきび、もちあわ、黒豆、大豆、青豆、茶豆、丸麦、はと麦の雑穀ブレンド１０穀を米２合に１合の割合で混ぜて食べています。高血圧、便秘などの改善とミネラル不足を補うためです。米と一緒にといで一晩おいて朝、炊飯器で炊くようにして家族４人で毎日食べています。嵯峨農園のことは「現代農業」増刊号『定年帰農２』でみました。友人の劇団文化座の佐々木愛さんにも薦めて食べてもらっています。
　岩手の山里で畑を守り３０戸の農家が雑穀生産組合を作って頑張っているのを応援しています。皆さんも嵯峨農園のホームページをご覧下さい。
=-
●5/8 栗田さんから、
ご無沙汰してすみません。
原田さんもご存知の大久保さんのそば打ちを紹介しました。
=-
●5/7 岩波・山本さんから、
こんにちは。すっかりご無沙汰しておりますが、
いかがお過ごしですか？

さて、このたび、ご著書（メールマガジンの楽しみ方）をＮＴＴドコモなどで
電子配信させていただくことになりました。
それにあたり、本文での訂正（誤植や、事実関係の誤りなど）はありますか？
もしあるようでしたら、配信データを訂正したいと思います。
ご確認、お願いいたします。

岩波書店アクティブ新書編集部
山本慎一

○編集部から：岩波書店の電子配信システム
M−stage book
http://www.nttdocomo.co.jp/p_s/mstage/book/index.html
だそうです。

ＮＴＴのＰＨＳかＦＯＭＡの契約者で、かつ携帯端末かノートＰＣを持っていると読めるそうです。

読み方の説明
http://www.nttdocomo.co.jp/p_s/mstage/book/howto.html

料金システム
http://www.nttdocomo.co.jp/p_s/mstage/book/charge.html
=-
●5/9 松山しんのすけさんから、
松山しんのすけ＠Ｗｅｂｏｏｋです。
　以前、原田さんのご本を紹介させていただいたものです。
　その後お元気にお過ごしのことと思います。

　さて、今日はちょっと御願いでメールを差し上げました。
　今度、まぐまぐから　本を出すことになり、そのなかで
　原田さんの本のことを紹介させていただきたいと思います。
　本のタイトルは　『あした読まーにゃ！　５４冊の奇跡』
　で、１年間の書評の中で、お薦め５４冊を厳選したものです。

　添付のような原稿(抜粋）です。
　原田さんと近藤さんが並んで写っているお写真も載せたいのですが
　よろしいでしょうか？　（ホームページから取り込んだものです）

　ご了解いただければ幸いです。
　ではでは・・・。

　松山＠Ｗｅｂｏｏｋ
http://www.netpro.ne.jp/~webook/
=-
●5/11 森さんから、
109 号へ拙稿を送ります。
松井やよりさんの遺稿『愛と怒り　闘う勇気』（岩波書店）を読みました。
ブッシュのアメリカは「グローバル・ミリタリズム」で世界を席巻しようとしているという主張を背景にしています。それが特に印象に残りました。次々回に紹介します。
=-
●5/12 斎藤さんから
ご心配かけました、ほんとに持病をもちますと何時なにが起きるかわかりません。
この通信が「元気でなんとかやってます」との連絡帳の役割をはたしてくれま

す。

＜舌耕のネタ＞「クラス会　無料　病気相談日？」原田勉

　１９４８（昭和２３）年東京農林専門学校農科を卒業した１２９人の学友も３６人（約３割）は故人になった。今年のクラス会に集まった１４人は首都圏で比較的元気なものだけ。お互いに残り少ない余生を自覚しているので、久しく会わなかった友の元気な姿を見てことのほか喜ぶ。

　その後は病気になっている友の情報交換。そして実は俺もとガンの話。７５歳も過ぎると男のガン・前立腺腫瘍が多い。その検査から進行状況、幸い慢性型で旅もできるとの話。進行型の友が亡くなった報告も最近増えた。肺ガン、膵臓ガン、血液ガンなどの次に心臓疾患や脳卒中が多い。ほかに難病など誰も何らかの障害を抱えて苦労している。

　会食でも２次会でも医療情報交換ばかり、弱視で、しかも耳が遠くなってお互いに大きな声になる。補聴器が高価なのに合わないとか、病院や医療体制への不満は多い。そして命を守るのは自分しかいないと確認する。

　４、５年前まで集まると飲んでカラオケ歌うなど元気に楽しんだクラス会の様相が変わってしまった。まるで医療相談日だ。誰でも通る人生と思う。

　難病を抱えているのは自分だけではないということが分かっただけでも有益だった。クラス会は誰にも何の気兼ねもなく５５年前の学生時代を懐かしみ、悪行をさらけ出し、楽しい思い出を共にする、それだけでも幸せだ。これで免疫力強化になると思う。

　若い人には先の話だろうがやがてはやってくる高齢者社会の参考になればと思う。

＜山崎農業研究所情報＞定例研究会報告「キューバの農業」「遺伝子組換え」
5/2　　安富六郎

（要旨）　　山崎農業研究所定例研究会（107 回）2003.4.25

１．キューバ農業と技術協力の課題　東京大学名誉教授　山崎耕宇氏

（１）日本キューバ科学技術交流委員会の紹介

日本とキューバの科学技術交流委員会が設置されて以来１６年間に多くの委員や調査団がキューバを訪れた。今回の調査団の日程は 2002 年 10 月２８ー11 月 8 日であった。

（２）キューバの気候、地勢などの概況（省略）

（３）歴史から見る農業

植民地時代には砂糖生産はアフリカからの黒人奴隷制と関係深い。18C 末以降、世界第一の砂糖生産国となる。日本との交流は１００年余り。スペインから 1902 年に独立。アメリカの経済投資が高まり、耕地の 2/3 がサトウキビ、残りがタバコというモノカルチャーの状態となる。わずかな土地に自給的な農業をした。コメはわずかしか作れなかった。

カストロによる革命（1959）後、農業は大型機械化農業となり数万 ha の国営農場があった。生産した砂糖の 2/3 をソ連に輸出していた。ソ連崩壊(1991)後、砂糖の輸出が落ち込み、経済危機になった。キューバ人は 1995 年には１人当たり１日 1850 kcal しか取っていないといわれるほどの食料不足に陥った。

（４）稲作技術

現在は、ソ連時代の国営農場は共同生産基本単位に変わりつつある。現在、砂糖消費は世界的に落ち込んだうえに、インド、ブラジルでも大量生産されたので砂糖の経済価値は低い。いままでの砂糖モノカルチャー方式をやめたが、農業労人口をどのように振り分けるかが問題となる。そこで日本式の小規模稲作生産が注目された。これがわが国の技術協力が求められる理由である。JICA からも数人が日本式自営型のコメづくり調査のために出かけている。

（５）有機農業

都市農業を中心とした有機農業である。個々の技術はすでにいろいろな国で試みられているが、キューバではそれらの知識をキューバに合うように応用している。このことについて「吉田太郎著、都市農業大国、キューバ・レポート」が参考になる。

（６）まとめ

キューバはわが国の稲作技術に注目している。 いままでの大型機械による直播栽培から日本型稲作をいかに定着させるか、サトウキビ畑やその他、農地の転作をどうするかなどを含めて、わが国のキューバ農業への総合的な技術協力が期待されている。

２．拡大する遺伝子組換え作物　（元）農水省放射線育種場長　大山勝夫氏

（１）世界の遺伝子組替え作物

世界のＧMO 作付け面積は増加しつつある。2002 年では 2001 年の 12%伸びで 5868 万 ha となった。アメリカ、アルゼンチン、カナダ・・・が多い。作付けでは大豆、トウモロコシ、棉、カノーラ（ナタネ）・・・

GMO 生産のねらいとする特性は除草剤耐性、病気耐性、ウイルス耐性など。GMO 特性には生産者へのメリットが求められたが現在は消費者へのメリットが求められる方向に移行しつつある。

（２）ＧMO 論争の背景にある問題

消費者が食べた後から、生産者あるいは国などが「安全性に問題があった」と言ったらどうするか。GMO は次々と新しく作られているので、安全性が論争の中心となる。

GMO にはつぎのような問題が出る。

生産→消費の過程で農家が個々に栽培するのではなく、アメリカなどの大企業が一括生産する。消費者の心配は、病気にならないか、生物多様性の崩壊につながらないか。この２点になろう。農業のマクドナルド化が進行する。農民のいない多国籍アグリビジネスが入ってくる。「利益と恩恵」にあずかる者は誰か？「危険」を背負う者は誰か？ということになろう。

（４）研究者、技術者に求められる倫理

リスクは消費者が判断する。生産者はその制約を受けながら生産することにな 。 しかし危険度の水準の数値化は現状では困難である。リスクを背負うのは消費者だが、人間を実験台には使えない。安全性は他の薬品テストなどのように動物実験はできない。　さらに安全性の捉え方にも色々ある。環境、飼料 に与える影響を重視する農水省、食品に与える影響を重視する厚生省などがあって、各分野でとらえ方が異なる。

（５）問題提起

次のようなことが必要であろう。
<1>（人や生態系への）安全性評価の研究を重視し、予算の充実をはかる
<2>　ハイテク研究の透明性を確立する
<3>　市民からなるリスク問題の情報伝達の充実をはかる
<4>　科学者、技術者としての倫理を確立する

（６）将来の夢
　食べるワクチン、植物からプラスチック生産、などが出来る可能性があるかもしれない。
　（文責　安富六郎）

＜丹羽敏明の戦争体験＞９、虎退治「山蛭のお蔭で命拾い」
5/1

英軍に引き渡す航空用ガソリンの警備勤務を終えて、シンガポールへ向けて移動中の他部隊に編入され、途中野営をしたり先行部隊が駐屯した跡地に暫く滞在したりしながら、わが中隊の本隊を追った。部隊の移動が実にまどろっこしい。理由は、クルアン（クアラルンプールとシンガポールの中間よりややシンガポール寄りの地点）というところに英軍の検問所があって、マレーを南下する部隊だけでなくスマトラから上陸してきた部隊も検問を受けるので、そこで大渋滞しているらしい。

われわれが宿営するところは、ジャングルを切り開いたようなところだったが、先行部隊が駐屯した跡地なので、キヤンプを張ったり、小屋を建てるなどの設営の苦労はなかったが、食糧の配給は極端に乏しくなった。唯一豊富なのはタピオカと称する芋で、これは桑の小枝のような苗木を植えてから３カ月もすれば根が太くなって食べられるようになるので、先行部隊が植えて行ったタピオカを掘って食べた後は、後続部隊のために苗木を植えておくきまりになっており、その作業が毎日の仕事だった。

主食が芋ばかりでは体がもたないので、各分隊で工夫をこらすことになる。周りはジャングルなので生き物はいるはずなのだが、例えば蛇やトカケなどは捕りつくしたのかあまり見かけない。しかし隣の隊には蛇捕りの名人がいるらしく、たまに蛇の皮を剥いで料理しているところを見かけた。「ああいう芸当は俺たちには無理だな」と諦めたが、何か食えるものを見つけようと相談した結

果、カタツムリなら簡単に捕れそうだということになった。南方のカタツムリは赤ん坊の拳大ぐらいのがいて比較的捕りやすい。しかし「どこかの隊でデンデンムシを食って死んだやつがいるとか聞いたぜ」と異論が出た。「渦が左巻きのやつが危ないらしい」という者もいたので隣の隊の蛇捕り名人に聞いたところ、「臓物を食わなければ大丈夫だ」と教えてくれた。ということは「ナメクジの部分だけなら食えるということか」とあまり乗り気でない雰囲気だったが、とにかくやってみようと、採ってきたカタツムリの外に出た部分だけを切り落としてバケツに入れ煮立てた。さらにあく抜きをして塩で味付けをし恐る恐る試食したが、しこしこして結構食べられた。

カタツムリを捕らえるのも難しくなってきたとき、現地人が虎が出たと騒いでいた。「これだ」と私を入れて３人の同年兵が虎を捕まえるべく鉈を腰に差して、虎が水を飲みに来るというジャングルの奥の池を目指して出かけた。颯爽とジャングルへ乗り込んだのはいいが、たちまち山蛭の襲撃に出食わした。襲いかかるのは足元からばかりではない、木の上から矢のように体当たりしてくる。衣服の上からでも容赦なく血を吸い、払い落としても払い落としても間断なく襲撃してくるので防ぎようがない。ついにほうほうのていで逃げ出したが、考えてみれば、虎に出くわしていたら逆に虎の餌食になっていたかも知れない。山蛭に無謀な行動を阻止されて命拾いしたようなものだった。

＜日本たまご事情＞「東京・等々力（とどろき）の蜜蜂」愛鶏園・斎藤富士雄
5/12

ちょっと脱線します。
世の中には愉快な人がいるもんで、話をしているとこちらまで嬉しくなってしまう、古い友人渡辺さんのことである。
ゴールデンウィークの一日、東京等々力の渡辺さん宅をに訪ねた。

彼は現役を引退してから、ここ等々力で蜜蜂を飼って立派に蜂蜜を取っているのだと言う、それも半端な数ではない。
自宅の屋上には養蜂箱が３ヶ、近くの奇跡的に残った畑の隅を借りて７ヶ、計１０ヶを持つ立派な養蜂家である、養蜂箱一つにつき５万匹の蜜蜂が働いているという。
よくこんな住宅街で花の蜜が見つかるものだとあきれていると、彼はすましたもので大東京だからこそ花があるのだと言う、なるほど？！彼の蜜蜂たちは隣

の自由が丘にある高級住宅の庭まで出張して独占的に蜜と花粉を集め、お返しに受粉を手伝ってくるのだと彼は意気軒昂である。蜂同士どの方角にはなんの花が咲いていて良い蜜がとれると教えあっているという、ほれこの羽を震わせているのがそうだと指差されてもこちとらにはさっぱり分らない、彼は蜜蜂と会話ができるのであろう。

もっとも渡辺さんは現役の頃、飼料会社の研究開発部門で働き、養蜂のプロになり、世界的な蜜蜂ネットワークを築いた男である。
蜜蜂にのめり込み、引退後は都市養蜂？のパイオニアとなっている。絞りたての等々力の蜂蜜を水割にしてご馳走になったが、お世辞ぬきで旨かった。
都内で養蜂をやっているのは彼だけだから、もし東京で蜜蜂に出会ったらそれは渡辺さんのそれに違いない。

齋藤　富士雄
（株）愛鶏園
http://www.ikn.co.jp/

＜森　清の読後感＞「女性と仕事２、女の駆け抜け法」遥洋子『ハイブリッド・ウーマン』講談社、２００３年１月刊、１５００円＋税

5/11
遙洋子『ハイブリッド・ウーマン』講談社、2003 年 1 月、1500 円＋税
http://www.bookclub.kodansha.co.jp/Scripts/bookclub/intro/intro.idc?id=35719

「女性と仕事(2)　女の駆け抜け法」
　男にも女にも好かれる女、それがハイブリッド・ウーマンだという。いまだに強固な男性社会を生き抜くには、「媚びと、戦いの、使い分けの技術を持つ女」になることだ必要だと主張する。「媚び」といってもそれは、通過地点としてのもので、ゼスチャーでいい。

　著者は、テレビタレントである。その働きの場はジェンダー満開だ。その場で戦うにはどんな武器を身につけたらいいかと、東大の上野千鶴子教授のゼミに入った。その記録はすでに出して評判を取った（『東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ』筑摩書房)。それで活躍の場をテレビ局以外にも広げられた。
上野教授によって磨いた知力と現実で鍛えた生存力で判断すると、自分が思う

ように生き抜くには、男性から女性まで、いかに多くのサポーターを獲得することが必要かと分かった。その報告が本書である。生活し、働く女性には、よい示唆となろう。

本書は箴言集のようでもある。たとえば、「私は人間嫌いなのではなく、ジェンダー嫌いである」。職場で自分の世界を守っていようとすると、人間嫌いかと疑われる。そうではない。「恐らく新しい時代は堕落のなかにある。美徳と決別しなければやってこない世界にある」。限りなくジェンダーで責められると、堕落しかないとなる。「女子高生を嘆いている間は、社会は変化しないだろう」。女子高生たちは現代社会を嘲い、軽蔑している。それがわからない限りは時代を変える力にはなれない。

「もし、駆け抜けたければ、まず自分の位置を可視化できること。その位置に的確な話法を心がけること。味方を作り、敵をできるだけ煽らないこと」。まず、自分を知る。相手をこちらに巻きこむ策を深める。相手がキレないように促す。何れも交渉術の極意である。

ハイブリッド・ウーマンとして生きるには、男性にも女性にも種々のタイプがあるから、それをわきまえ、どの人をどのように活用するかを見極める力が必要と説く。その上で問題は自分のために生きるのだと覚悟を決める。それが前提だ。会社や夫のために生きるのではない。それには、「孤独を引き受ける」ことが条件だという。

ひとつにはここが生き方の分かれ道である。著者の論法だと、女性としてこの社会で自分を守り、自分に恥じない生活をするには、シングルで生きるしかないということになるからである。本当にそうだろうか。

著者は、本書で有名無名の男女、橋本竜太郎、小泉純一郎、田中真紀子、辻元清美、和泉元彌、その他多数をモデルに選んで恋愛論、身体論、堕落論、痴漢論、男性論、出世論、政治論などを展開している。具体的なだけに、分かりいい。なるほどと思わせる。しかし、女性が自分を生きるのに本書のモデル以外にはいないのかと考えると、そうでもないだろうと思える。たとえば、緒方貞子氏、犬養道子氏の例がある。前者は夫を持ち、後者はシングルである。しかしそれぞれにしっかりと「人間」を生きている。まさに「ハイブリッド・ウーマン」である。

また、人を愛して無我である人もいる。宮城まり子氏。宮城さんは、すでに結婚していて、しかも妻は妊娠していた吉行淳之介氏を愛してしまい、それでも３７年も一緒に暮らして愛を全うし、自分をも生き抜いた。彼女の人生は、

例外か。そうではないように思う。次回には、宮城さんの吉行氏との生活を回想した本（文庫での再刊）を取り上げてみたい。

森　清
http://homepage2.nifty.com/morikiyoshi/

＜ＮＨＫと近藤康男＞戦後民主化の先駆け「放送委員会」の思い出

（5/2 NHK 放送文化研究所のインタビューに答えて：1946.近藤康男は当時の逓信院から指名され、ＮＨＫの民主化と会長選出のための放送委員会に参加した。当時の委員で健在なのは近藤康男だけというので「放送史」作成のため思い出を語った。以下その要旨）

放送委員会のメンバーは、宮本百合子、加藤しずえ、岩波茂雄、馬場恒吾、島上善五郎、瓜生忠夫など婦人代表やマスコミ代表、労働代表、青年代表まで含まれていて、従来の政府では想像できなかった組み合わせの委員会であった。私は農民代表ということであった。

最初の任務は日本放送協会の会長を決めることであった。それもＧＨＱの占領政策で官僚が放送事業を支配するのはいけないということで、民間の委員だけで何回も話し合って高野岩三郎に決まった。その後は常任委員会でプログラムの編成やいろいろな意見を出した。

私は、１、アナウンサー、司会者、立案者として新聞社なみに各分野の専門的スタッフを養成すること。２、放送局の機構を専門別に分化する。３、計画的探訪報告。４、資料収集組織をつくること。（地方的嘱託からホットニュースを集める、官庁・農業会に連絡員を置くこと）を提案し、賛成を得たらすぐその方向で措置されたので、民主主義というのはいいものだと思った。

（詳しくは近藤康男『一農政学徒の回想』第４章民主化の波をご覧下さい）

＜元気な農業・元気なくらし・４「大人気！誰でも打てる十割そば」栗田庄一
5/8

大人気！ 誰でも打てる十割そば
http://www.ruralnet.or.jp/books/2002/54002190.htm

たしかにこれは手打ちそばづくりの革命です。
農文協から「誰でも打てる十割そば」という本を出した大久保裕弘（おおくぼ・やすひろ）さんは、東京練馬区光ヶ丘団地にお住い。今、この本が農文協のベストセラーのトップを走っています。

「高齢者と女性にやさしい」が売り物のそば打ち法は、４月下旬、東京国際ブックフェアの農文協ブースで開いた「体験教室」でも大変な人気でした。
この実演は近くで小生も拝見。目からウロコの連続でした。

つなぎなしでそば粉１００％のそばが打てるのか。十割では打てないからヤマイモとかフノリとか、あれこれつなぎを工夫しているのではないか。そんな先入観を持っていました。ところが「大久保方式」では、じつにカンタンに十割そばが打てるのです。

しかも美味しいんです。手打ちだ、田舎そばだと言われて、何度か食べたことがありますが、太くて、ぼそぼそして、粉っぽくて、うまいとは感じませんでした。もちろん、老舗とかいう店で美味しいそばを食べたことはあります。でも、素人の手打ちはそんなにうまいものじゃない、というのがこれまでの実感でした。
それが見事に覆りました。「これならオレもやれそうだ」と思わせる実演の内容でした。

そば打ちの最大のポイントは「水まわし」なのだそうです。それすら知らない素人の私でしたが、水まわし、つまり、そば粉に水を加えて、ダマにならずに、粉全体に水分を行き渡らせる、そこまでできれば、そば打ちの７割方は成功したといえるのだそうです。
大久保式はこの水まわしを誰でも簡単に上手にできるようにしたことが、最大の革命といえるようです。しかも手にそば粉が触れないで水まわしができる。手が荒れることがない。だから女性にやさしい。

東京理科大卒で大手のインク製造会社の研究職をしていたという７０代の大久保さん。研究者ですから、カンには頼らない。きちんと量を分析する。水まわし成功の基本は、加える水の量。どうやら、従来の素人の手打ちは水の量が足りなかったようです。少しずつ水を加えないと手ではうまく水がまわらない。

大久保式は、容器に粉を入れたあと、いっぺんに水を加えます。そのあと、手づくりの「水まわし棒」で、ゆっくりやさしくかき混ぜていく。手を使わずふんわりかき混ぜていくと、
かたまりができてきて、容器の壁についた粉も取り込まれて、水まわし完了。その間１０分たらず。

大久保式の特長は、家庭での１食分、そば粉５００グラム以下の量の手打ちをする、道具と手順をシステム化したことです。こねも、切りも、力いらずだから高齢者にもやさしい。
これをマスターすれば、農家であれば畑でそばをつくりたくなるはずです。こんなに簡単に美味しい十割そばを打てるのなら、もっともっと食べたい、食べさせたい。この方法は農村に国産そばづくりを増やす起爆剤になるはずです。

関心のある方は、書店で「誰でも打てる十割そば」（定価税込１１００円）をお求めください。誰でも打てます。小生もいまそば粉をさがしています。
最後に、この本が農文協から発行されたきっかけは、このメールマガジン主宰者原田さんの紹介から始まったことを申し添えます。

「誰でも打てる十割そば」WEB から注文できます。
http://www.ruralnet.or.jp/books/2002/54002190.htm

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
（社）農山漁村文化協会　提携事業センター　栗田　庄一
〒107-8668　東京都港区赤坂７－６－１
TEL.03-3585-1144 FAX.03-3585-6466
http://www.ruralnet.or.jp/
kurita@mail.ruralnet.or.jp

＜農文協図書館サイト更新情報＞

次回の更新予定は、5/17 頃の予定です。
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/
更新予定内容、ニュース（閲覧 CD-ROM リニューアル）
近藤康男文庫目録その５

●「一般に流通していない農業書リスト」2003　完成　プレゼント！（継続中）
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/sp/200303/news2.html
各種農業団体が関係機関に配布普及するために出版、かつ一般の書店から入手するには困難な貴重な文献を多数収録した新年度版目録が完成。
約 1000 点の書籍を収録しております。ほとんど一 般書店では取扱っておりません。一般書店に注文しても入手出来ない書籍が大部分です。書名索引もついて使いやすくなりました。

【主な項目】ＪＡ農協関係／年鑑・名簿類／各種統計類／農業一般／地域・環境 ／経営・農地／税金・簿記／農薬・病害虫／土壌・肥料・生理／農業機械／栽培 一般／米・稲作／作物一般／野菜園芸／花卉園芸／果樹園芸／畜産／緑化・造園 ／特用・特産／森林・林産／漁業・漁協

ご希望の方は、FAX かメールでお申込みください。郵便番号・住所・氏名・電話、「現代農業」郵送で定期購読されている方は、宛名のところに印字してあるお客様コード（10 桁番号）をあわせてお知らせください。

ＦＡＸ：０３−３２７０−２８００（農業書センター）
book@mail.ruralnet.or.jp

農業書センター
http://www.ruralnet.or.jp/avcenter/index.html
よりお送りします。

◆「農文協図書目録 2003」も完成しました。合わせてお申し込みください。

＜文化座サイト更新情報＞

---

http://bunkaza.com/
◆「ほにほに、おなご医者（せんせい）」
2003 年、北海道公演スケジュール発表
http://bunkaza.com/play/honihoni/honihoni2003.html

「ほにほに、おなご医者（せんせい）」2000 年公演案内
http://bunkaza.com/play/honihoni/honihoni2000.html

◆鈴木光枝さん出演映画全国上映中

「さまちゃれ-泣かないでマンドリン」公式ページ
http://www.cp1.co.jp/summer/index.html
全国上映予定
http://www.cp1.co.jp/summer/jouei01.html

＜私の近況報告＞５月１日ー１３日（先輩との訣れ）

５月１日のメーデー。最近はニュースになることも少なく淋しきかぎり。

２日、ＮＨＫ放送文化研究所の前川さん他２人で、近藤康男先生自宅にインタビュー。ＧＨＱが占領政策の一つとして放送の民主化を求め、民間の委員で構成する「放送委員会」を設置した。その当時の思い出を語る（前掲）
同日、農工大日中友好会のホームページ打ち合わせ。中国同窓会出席のための訪中を計画していたが、中国・北京で新型肺炎流行のため一時見合わせることになった。

３日、劇団文化座女優鈴木光枝（みつえ）さん脳出血のため入院する。劇団創立以来のメンバーで親戚でもある先輩が意識不明になったという。６日に病室に見舞うが半身不随、言語障害、眼球も動かず。声をかけると僅かに左手で反応があった。（５月１０日少し言葉が出たという嬉しい情報があった）

７ー８日、東京農林専門学校農科２３年卒クラス会で富士山山麓一周のバス旅行に参加する。曇一時雨であったが、何度かお山は見えた。５湖めぐりと風穴の各種に驚き、麓の溶岩流の上に松・桧・広葉樹が大きくなっている新緑の景観は見事なものであった。富士休暇村に泊まる（詳しくはコラム）。

９日、訃報が二つあった。劇団文化座友の会会長の信元安貞さんが８日に亡くなったという知らせ。もう一つは山崎農業研究所元所長の須藤清次さんが亡くなったという。共に８２歳、公私ともにいろいろご指導をうけた先輩とお訣れはわが身に沁みて悲しい。ご冥福を祈る。

９日、山崎農業研究所　拡大幹事会。この一年の経過報告、次年度のあり方、

総会とシンポジュームの課題「水問題をめぐって」７月５日太陽コンサルタンツ３Ｆで行う予定。

１２日、町田市生涯学習部公民館のことぶき大学（担当・久松雄二さん）でメルマガの話をしてくれと依頼がある。農文協図書館で打ち合わせ。
　６月１８日テーマは「インターネットに助けられた余生」。ＮＨＫテレビで紹介されたビデオを導入にして、あとは『メールマガジンの楽しみ方』の要点を話すことになる。

広報まちだ 2003 年 4 月 11 日号
http://www.city.machida.tokyo.jp/kurashi/koho/2003/0411/index.html
町田市ことぶき大学（町田市在住６０才以上対象、募集は既に〆切）

次回、１１０号の締め切りは５月２６日、発行は５月２９日の予定です。

◎お願い「＜読者の声＞の投稿規定・メールの書き方」

１、件名（見出し）を必ず書くこと。読みたくなる見出しを簡潔・明瞭に。
「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的にズバリと書き出す。
２、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めの方に書く。
３、１回１テーマ、書き出し・本文・結論を１０行位にまとめる。
４、送信する前に、何を言わんとするか、読み返し、推敲することが大切。
５、ホームページを持っている人は、文末にＵＲＬをつける。
６、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックをする。
http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html
インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。html メールもご遠慮ください。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45『メールマガジンの楽しみ方』
著者：原田　勉　定価：本体７００円＋税　発行日：2002 年１０月４日
発行所：岩波書店　ISBN4-00-700045-X
まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら
http://nazuna.com/tom/book.html

『電子耕』から大切なお知らせ
http://nazuna.com/tom/10.html
＜本誌記事の無断転載を禁じます＞
****
隔週刊「78 歳が送る農業文化マガジン『電子耕』」　第 109 号
バックナンバー・購読申し込み/解除案内
http://nazuna.com/tom/denshico.html
2003.5.15（木）発行　西東京市・ひばりが丘　原田　勉
mailto:tom@nazuna.com
発行部数 1818 部 **********ここまで『電子耕』*******